

# 帯広市医師会立看護学校の整備について

令和3年1月18日  
厚生委員会提出資料

- ▶ 帯広市医師会では、平成29年度より、新たな看護師養成所(3年課程)の開設に向けた検討が進められてきました。その後、令和元年6月には、建設候補地を旧職員会館跡地に絞り込み、帯広市に対し土地提供や財政支援等の要請があったところです。
- ▶ 令和2年12月11日に帯広市医師会より計画概要の提示と、医師会スケジュールに合わせた支援の要請があったことから、帯広市における看護師養成の現状と課題とともに、同計画の内容等について報告するものです。

## 1. 十勝医療圏における看護師養成の現状と課題

### (1) 十勝管内における看護師養成の現状

- ▶ 十勝管内(帯広市内)には3つの養成所があり、令和元年度実績で就職者74名中、管内での就職者は60名。うち56名は市内に就職(市内就職率76%)するなど、地元養成・地元就職の機能が発揮されています。
  - ▶ 各養成機関の傾向として、看護高等専修学校(准看護師養成)においては進学率が高く、管外へ転出している一方、就職を希望する学生の多くが市内医療機関等に就職しています。他の3年課程養成機関においては、就職先が特定の医療機関に偏る傾向にあります。
  - ▶ 平成31年3月卒業生のうち十勝管内に就職者数は60人となり、地元での看護師養成により、地域の人材確保につながっています。一方、道内の看護師養成機関卒業後に十勝管内に就職したのは142人であり、地元養成機関による自給率(管内の就業割合)は42.3%にとどまっています。
- また、高校卒業後に管外の養成機関(3年課程)へ進学する学生や、准看護師養成課程終了後に看護師資格取得のため管外へ転出する学生が一定数いる現状にあります。

【看護師養成の現状 (十勝管内)】

名称	設立	学科・定員	入学者				
			H28	H29	H30	R1	R2
帯広市医師会 看護高等専修学校	S28	准看護学科2年 40名/1学年	37	37	33	32	23
北海道社会事業協会 帯広看護専門学校	S47	看護学科3年 30名/1学年	30	34	30	30	25
十勝圏複合事務組合 帯広高等看護学院	S45 H7改築	看護学科3年 45名/1学年	45	47	37	45	47

【管内看護師養成機関の卒業後進路状況 (H31.3 卒業生)】

	看護高等専修学校	帯広看護専門学校	帯広高等看護学院	合計
卒業生	23	33	42	98
就職	10	30	34	74
十勝管内	10	17	33	60
うち市内	10	17	29	56
うち市外			4	4
道内		13	1	14
道外				0
主な就職先	市内 6病院10	帯広協会病院17	厚生病院21、 国立帯広1、他病院7	
	管内		直近3年公立芽室7、 足寄町立1、池田町立1	
	管外	道内協会病院13		

【看護高等専修学校～卒業後進路状況】

年度	卒業	進学	就職								進学率(%)	就職率(%)				
			市内			管内			その他 道内	道外		合計	全体			
			病院	診療所	その他	病院	診療所	その他					市内	管内	管外	
H27	26	8	9	1	1	1	1	2	1	1	17	30.8	65.4	64.7	23.5	11.8
H28	33	12	17	3	0	1	0	0	0	0	21	36.4	63.6	95.2	4.8	0.0
H29	30	9	13	1	0	2	1	0	1	1	19	30.0	63.3	73.7	15.8	10.5
H30	28	11	9	2	0	0	1	0	2	0	14	39.3	50.0	78.6	7.1	14.3
R1	23	11	10	0	0	0	0	0	0	0	10	47.8	43.5	100.0	0.0	0.0

### (2) 看護師を取り巻く地域課題

- ▶ 看護師は、医療機関のみならず福祉施設、自治体などその就業先は多岐に渡り、各分野で重要な役割を担っています。十勝医療圏における看護師就業数(人口10万対比)は道内平均を下回り、看護師求人・求職状況を見ても、求人倍率は2.4倍、充足率9.9%と看護師不足の状況にあります。
- ▶ 十勝圏における看護職員需要推計では、2025年には看護師不足がさらに深刻になることが想定され、とりわけ在宅医療・訪問診療の需要が大幅に増えることに伴い、訪問看護事業所や在宅介護分野での人材不足が深刻になることが見込まれています。
- ▶ 看護師確保は、北海道全域に渡る課題であり、道内における各医療圏域間での競争環境が厳しくなる中、今後、地元養成・地元就職に向けた看護師養成の重要性は、さらに高まることが予測されます。

＜第8次北海道看護職員需要推計 十勝圏＞

		2025需要数①	2018就業者②	差引②-①	対比①:②
合計	看護職員需要	4742.8	4420.7	▲322.0	1.07倍
分野別	医療分野	3545.4	3557.6	12.2	1.00倍
	在宅介護分野	858.6	567.9	▲290.7	1.51倍
	その他	338.7	295.2	▲43.5	1.15倍
施設別	無床診療所	503.5	346.5	▲157.0	1.45倍
	訪問看護事業所	257.6	69.0	▲188.6	3.73倍
	社会福祉施設	132.4	83.6	▲48.8	1.58倍

＜十勝医療圏の看護師就業数平成30年12月末＞

就業者数	人口10万対	道人口10万対
4,446人	1,322.9人	1,544.9人

【北海道看護職員就業状況】

＜令和元年度 十勝の看護師求人状況＞

求職者数	求人数	求人倍率	就職件数	充足率
266人	626人	2.4	62人	9.9%

※北海道ナースセンター実績

## 2. 帯広市医師会看護師養成所(3年課程)の計画概要等(抜粋記載)・・・別添参照

### (1) 設置の趣旨及び必要性

#### (設置の趣旨)

- ▶ 看護師の役割、地域住民や医療現場における要望の変化を踏まえ、地域の看護師不足を改善するため、准看護師養成所(昭和28年～)を閉校し、新たに看護師養成所3年課程を設立
- ▶ 地域に求められる看護師を地元で養成し、地元へ輩出

#### (設置の必要性)

- ▶ 在宅医療や地域包括ケアなど多様な場で質の高いケア提供できる実践力育成
  - ▶ 十勝医療圏の養成所学年定員(人口10万人当たり)は全道平均の半分以下。十勝出身者の十勝進学「自給率」43.6%(看護系の大学進学者含め100人近くが流出)
  - ▶ 看護師の地域偏在解消(十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏比較で2025年不足数は最多)
  - ▶ 第七期帯広市総合計画 施策6～医療体制の安定的確保等への対応
- ※ 教育理念、目的及び目標については、十勝・帯広における看護師の役割の広がりに対して、保健・医療・福祉に貢献できる看護師の育成を基本に今後作成。

(2) 事業概要(予定)

- 【開 校】 令和5年4月(※准看護師養成所はR5年3月末閉校)
- 【養成課程】 看護学科3年課程、全日制
- 【定 員】 1学年につき35人
- 【教 員 等】 開設当初教員8人、R8より専任教員11人体制、事務職員2名程度
- 【卒業時資格取得】 看護師国家試験、保健師・助産師学校、看護大学編入の受験資格等
- 【臨地実習病院・施設(予定)】 市内病院(母子・小児・成年・老年・精神等看護)、訪問看護ステーション、精神保健福祉センター、助産所、介護老人保健・福祉施設、地域包括支援センター、保育所等
- 【事業規模】 建設費・設備費 約6億円 延床面積 約1,864㎡

<帯広市医師会(予定)の主な経過>

- ▶ H29～ 新たな看護師養成所(3年課程)の開設に向けた検討、建設候補地の選定
- ▶ R1.6 帯広市に対し要請書提出(旧職員会館跡地の提供、財政支援等の要請)
- ▶ R1.12 臨時総会開催～看護師養成所(3年課程)設立決定
- ▶ R2.4 養成所3年課程設立準備委員会設置、養成所指定に向けた準備事務等の実施
- ▶ R2.12 帯広市に対し要請書と整備計画概要の提出(以下、主な要請事項)

- ① 建設用地の確保について～R3.9末を目途に養成所設置計画書(土地契約書写し添付)を道へ提出予定のため、当該スケジュールを踏まえた市の対応について要請。
- ② 令和4年4月以降、道の補助要綱に基づく支援を受け、速やかに工事着工等に着手するため、当該スケジュールを踏まえた市の財政支援について要請。

3. 今後の想定スケジュール

今後、医師会スケジュールを踏まえつつ、北海道との協議状況や計画内容等を確認しながら、帯広市における「養成所整備に対する支援」及び「建設用地に対する支援」について検討を進めます。

年 月	帯広市医師会(予定)
～R3.3月	整備基本計画(案)作成
～R3.9月	道へ「養成所設置計画書～土地契約書添付」「専修学校設置認可計画書」提出
～R4.3月	「養成所設置計画書 審査結果」受理 北海道予算計上(予定)
R4.4月	道の補助指令、建設着工等
R4.4月～	「養成所指定申請書」提出、「R5年度学生募集」開始
～R4.9月	「専修学校設置認可申請書」提出
～R5.3月	「養成所指定通知書」「専修学校設置認可通知書」受理 准看護師養成所閉校
R5.4.1	帯広市医師会 看護師養成所(3年課程)開校